

「まぶさび」。それは、「すきとおりと」「まばゆさ」への美的感性を「さび」の心でうけとめる風雅の理念。

京都大学総合博物館 平成22年度特別展

まぶさび展

2011年1月19日(水)―3月13日(日)
京都大学総合博物館2階 9時30分〜16時30分(入場は16時まで)

◎休館日＝月曜日・火曜日(平日祝日にかかわらず)

◎入場料＝一般400円／大学生・高校生300円／中学生・小学生200円

※20名以上の場合は団体観覧料が適用されます ※70歳以上の方・身体障害者手帳をお持ちの方は無料

◎主催＝総合博物館、人間・環境学研究所 ◎共催＝京都市、長浜市

◎期間中の催し＝「百人一滝」朗読。パフォーマンス 出演：まぶさび歌人

2011年1月22日(土) 13時30分より 展示会場にて

トーク・ショー 篠原資明(京都大学大学院教授・十松井茂(詩人・東京藝術大学大学院特任講師)

2011年2月12日(土) 14時より 展示会場にて

京都大学総合博物館

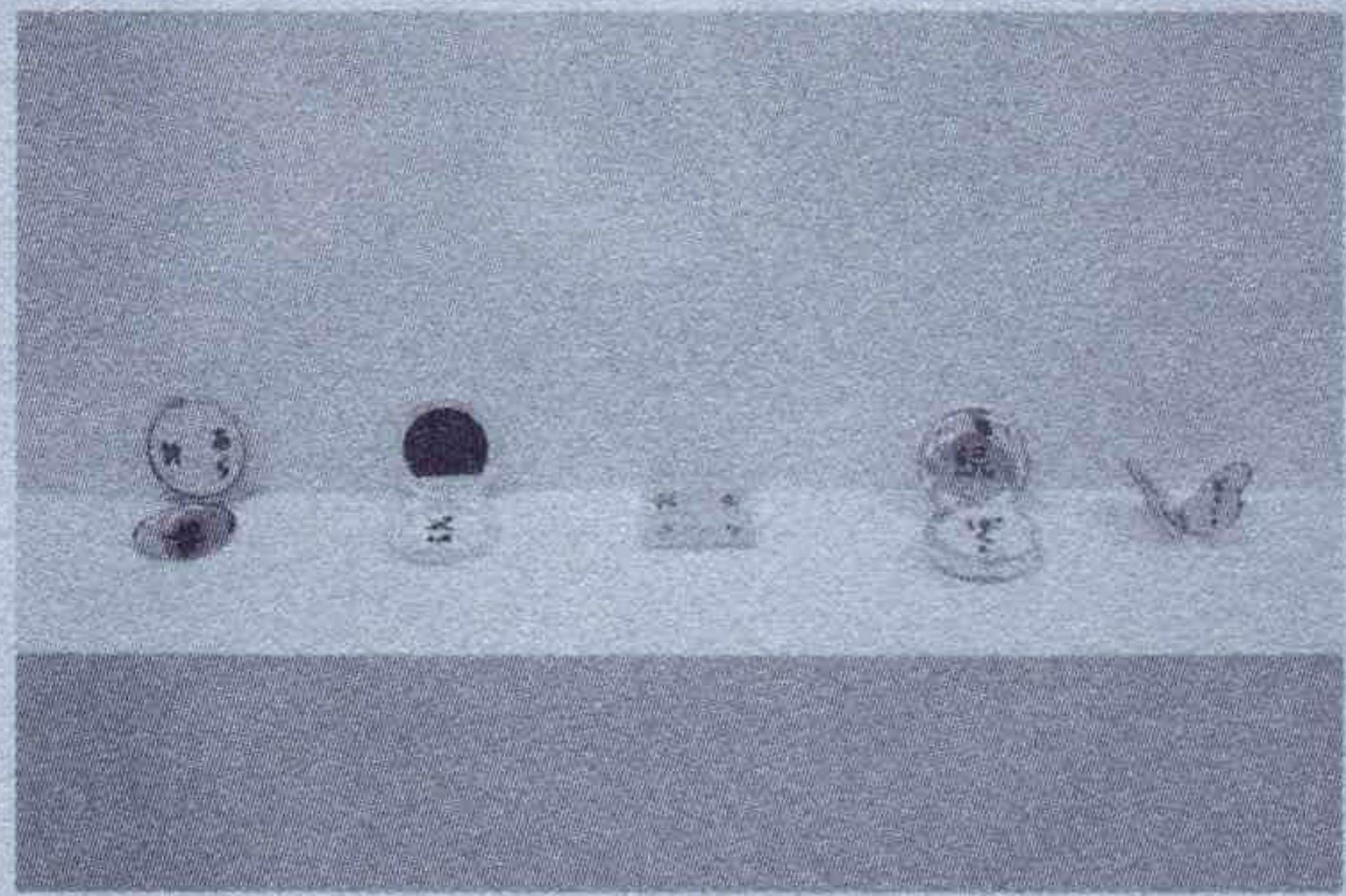
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
TEL075-753-3272
<http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/index.html>



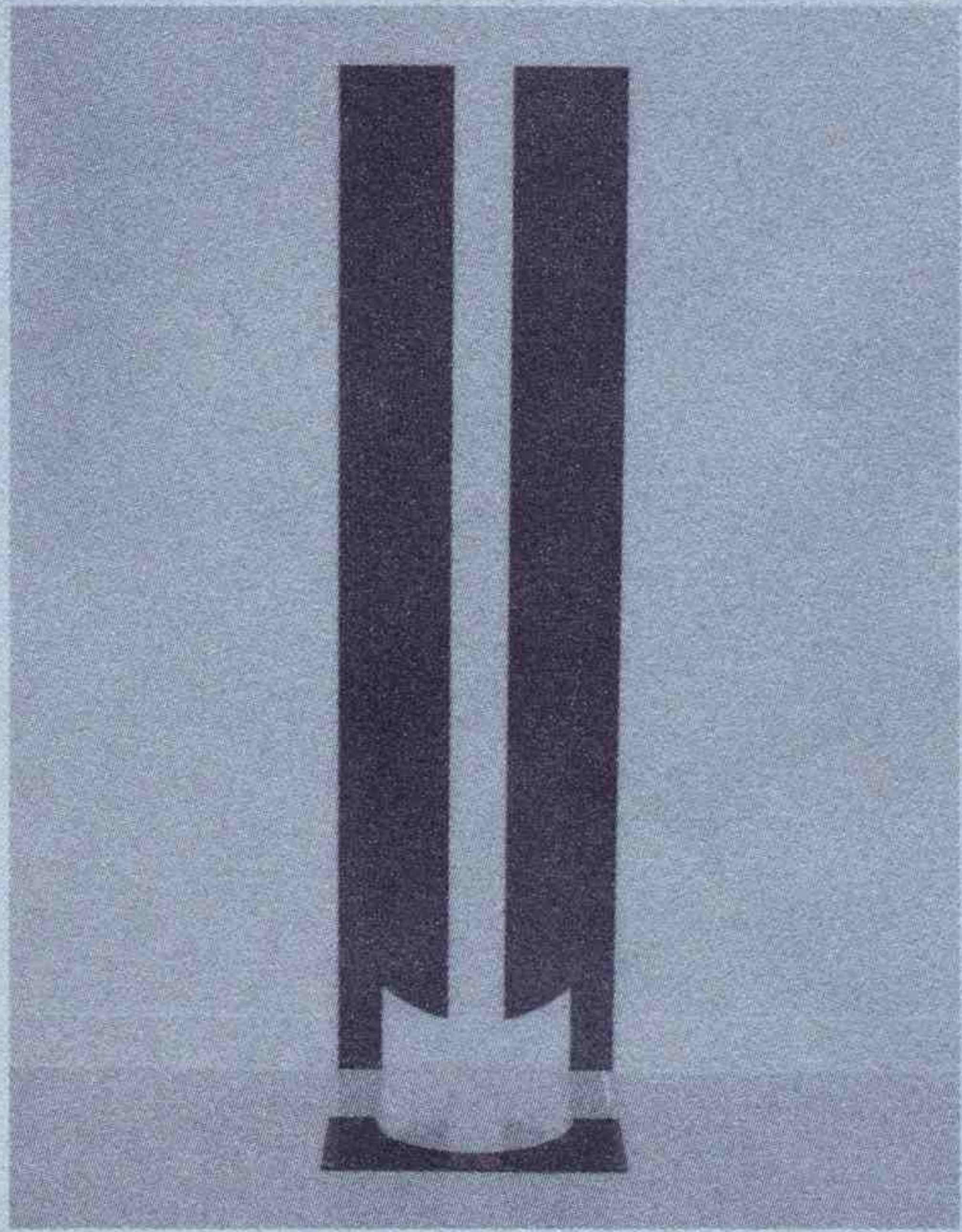
京都大学総合博物館 平成22年度特別展

M a b u n b a s a b i まぶさび展

「まぶさび」とは、「まぶし」と「さびし」を掛けあわせた造語であり、新しい風雅の理念「風雅モダン」を示すものとして提唱されてきました。19世紀後半から今日にいたるまで、数多くの透明素材と反射・反映素材が開発されてきましたが、それとともに、「すきとおりと「まばゆさ」への美的感性も育まれてきたように思われます。「まぶさび」とは、そういった美的感性を「さび」の心で受けとめようとするものです。



超絶短詩オブジェ

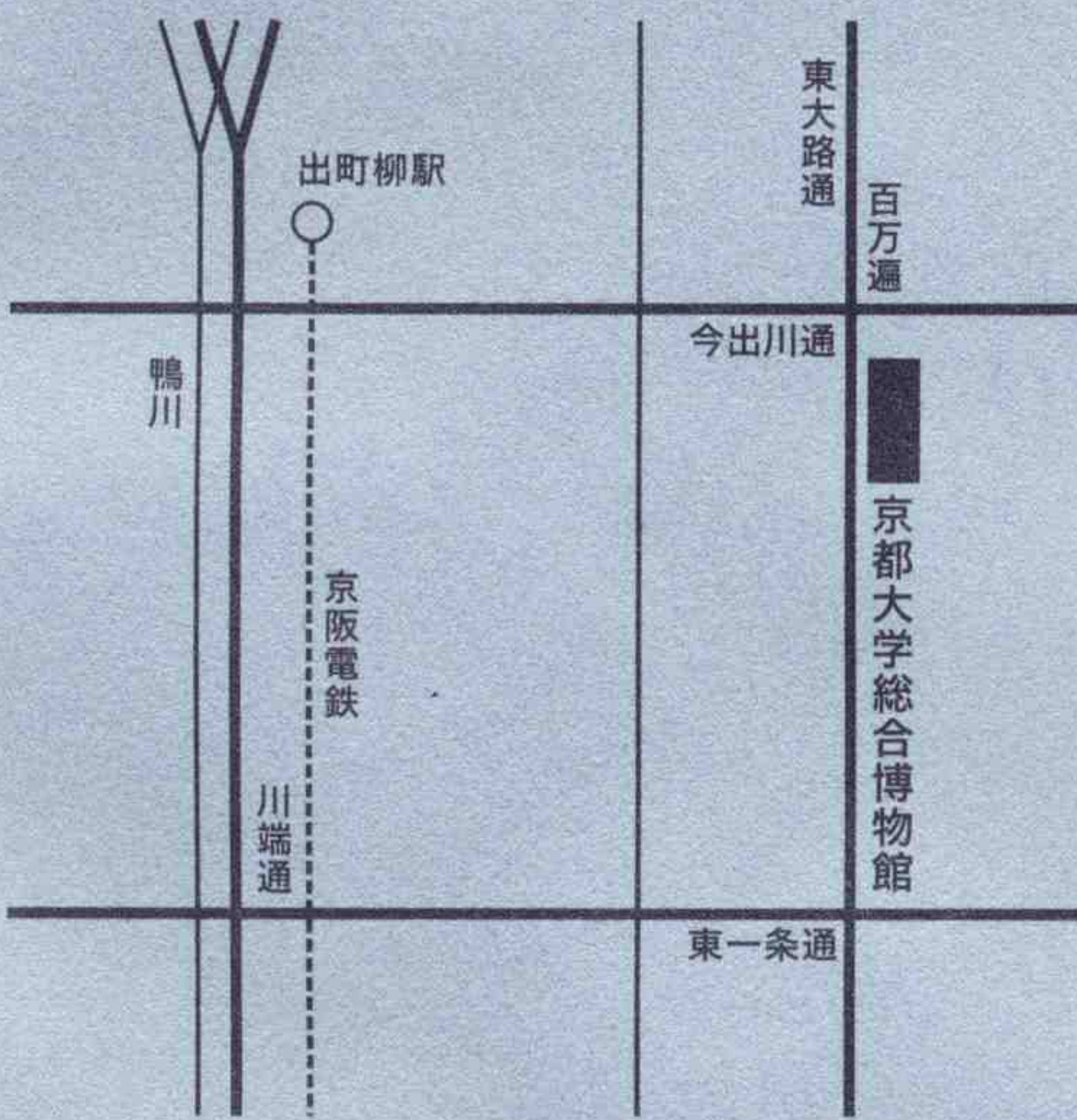


まぶさび鏡 2

篠原資明は、そのような「まぶさび」の理念を、芸術の理論的・歴史的な研究、展覧会の企画、方法詩の創作などを通して、追究してきました。今回の展覧会では、そうした理論と実践を創造的なかたちで提示します。

展示は、おもにつきの四つのテーマに分けて行われます。

- ① 「さび」と日本の美意識の、ひとつの源流である藤原定家による百人一首の「まぶさび」的とらえ直し。
- ② 小堀遠州に代表される「きれいなさび」の世界の「まぶさび」的とらえ直し。
- ③ 20世紀以後のアート、デザイン、文学の「まぶさび」的とらえ直し。
- ④ 方法詩の作品と歴史の提示。



京都大学総合博物館

〒606-8501 京都市左京区吉田本町
TEL (075) 753-3272 FAX (075) 753-3277
<http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/indexj.html>

[交通機関]

- 市バス JR/近鉄京都駅から17・206系統、阪急河原町駅から3・17・31・201系統、地下鉄烏丸線今出川駅から201・203系統、地下鉄東西線東山駅から31・201・206系統、「百万遍(ひゃくまんべん)」下車徒歩約2分
- 京阪「出町柳(でまちやなぎ)」駅下車徒歩約15分
※駐車場がありませんので、公共交通機関をご利用ください。